

1. 今月の主なニュース / The main news of this month

1.1 東北電力 日産自動車 三井物産 三菱地所、電気自動車を活用したバーチャルパワープラント構築に向けた「V2G実証プロジェクト」の開始 (2018/10/4)

SII 補助事業。2018年10月4日から2019年3月31日まで仙台のホテルにて実施。

EVは2台のため小ぶりの印象だが、そのEVはカーシェアとして利用される点の特徴。

[リリース元] http://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1198372_1049.html

[English] Tohoku Electric Power, NISSAN MOTOR, MITSUI & CO., and MITSUBISHI ESTATE HOME to start V2G project with EV in Sendai (October.4.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.2 ニチコン、公共・産業用蓄電システムに高出力・大容量タイプを追加 (2018/10/4)

出力：50kW、蓄電容量：78kWh から 78kWh 単位で 624kWh まで増設が可能。

[リリース元] <http://www.nichicon.co.jp/new/new222.html>

[English] Nichicon add new Industrial ESS to their line-up (October.4.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.3 千代田化工、北海道北部風力送電株式会社向け世界最大級の蓄電池システム建設工事 設計・調達・建設 (EPC) 業務を受注 (2018/10/5)

8月に報道があった北海道豊富なユーラスエネルギー出資の風力発電および送電線整備の件、続報。

▼下記 2.1 項＝受注企業による報道について

[リリース元] <https://www.chiyodacorp.com/media/181005.pdf>

[English] Chiyoda Awarded an Engineering, Procurement, and Construction Contract for the World's Largest Battery Storage System Project in Hokkaido Prefecture, Japan (October.5.2018)

[source] https://www.chiyodacorp.com/media/181005_e.pdf

1.4 ニチコン、太陽光発電の自家消費に最適なエントリーモデル「超小型、低価格の単機能蓄電システム」を開発導入 (2018/10/9)

蓄電容量 4.1kWh、出力 1.5kW、希望小売価格 998,000 円。販売開始は 2019 年 1 月。2019 年 11 月以降に発生する FIT 期間終了太陽光発電システム既設ユーザーがターゲットとのこと。

▼下記 2.2 項＝仕様について

[リリース元] <http://www.nichicon.co.jp/new/new223.html>

[English] Nichicon sells a new reasonable Residential ESS, especially for self-consumption (October.25.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.5 GS ユアサ 北海道豊富町に設置する世界最大規模の蓄電池設備を受注 (2018/10/9)

ユーラスの件、続報。ここまで情報が事前に公開されるものは珍しい。

▼下記 2.1 項＝受注企業による報道について

[リリース元] https://www.gs-yuasa.com/jp/newsrelease/article.php?ucode=gs180913322428_598

[English] GS YUASA awarded Contract of the World's Largest Battery Storage System for Wind in Hokkaido Prefecture, Japan (October.9.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.6 ニチコン IoT やウェアラブルに最適な小形リチウムイオン二次電池「SLB シリーズ」を開発(2018/10/10)
充電方法によっては、ボタン電池の代替えとして普及する可能性もある。

[リリース元] <http://www.nichicon.co.jp/new/new224.html>

[English] Nichicon developed new small Li-ion battery "SLB series" for IoT and wearable (October.10.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.7 エリーパワー、東電 関電他と蓄電池を用いた大規模 VPP 実証試験を開始(2018/10/11)

SII 事業。約 500 台の蓄電池を同時制御。

[リリース元] <http://eliipower.co.jp/news/2018/20181011.html>

[English] ELIIP POWER start large VPP demonstration of 500 ESS with TEPCO and other companies (October.11.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.8 東芝 固定資産の取得（新工場建設）に関するお知らせ（2018/10/16）

同社のリチウムイオン電池「SCiB™」の製造工場として横浜にて取得。投資金額 162 億円、着工予定 2019 年 7 月、稼働予定 2020 年 10 月。事業所内に建設するため金額は建屋と設備代のみ。

家庭用 ESS からは撤退するが、SCiB を活用した事業としては積極的に進める方針が明確になった。

[リリース元] https://www.toshiba.co.jp/about/ir/jp/news/20181016_1.pdf

[English] Toshiba to Build New production Facility for SCiB™ in Yokohama (October.16.2018)

[source] https://www.toshiba.co.jp/about/ir/en/news/20181016_1.pdf

1.9 伊藤忠、AI 技術を活用した次世代蓄電システム販売開始について（2018/10/24）

システム担当の英国 Moixa 社、ESS 製造のエヌエフ回路設計ブロック、および電力小売りの TRENDE 社と連携し、家庭向けの蓄電池専用電力料金プランの販売を開始する。今までに類を見ない先進的な試みと言える。

[リリース元] https://www.itochu.co.jp/ja/news/press/2018/181024_2.html

[English] ITOCHU Announces Launch of Next-Generation Energy Storage System That Utilizes AI Technology (October.24.2018)

[source] https://www.itochu.co.jp/en/news/press/2018/181024_2.html

1.10 九電 イーレックス 日産、電気自動車を活用した最大需要電力削減パイロットプロジェクトを開始(2018/10/26)

イーレックス社は 1999 年設立の新電力会社。

EV を利用したピークカットの試験。その台数は不明だが、小規模なものと予想される。また、ビルディング向けの V2B と明らかにしている点が特徴的である。

[リリース元] http://www.kyuden.co.jp/press_h181026-1.html

[English] KYUSHU ELECTRIC POWER, EREX and NISSAN MOTORS start new V2B project (October.26.2018)

[source] Refer to the site above (Japanese only)

1.11 日立化成 日立パワーソリューションズ 日本ガイシ、ドイツで大規模ハイブリッド蓄電池システムを完成 (2018/10/31)

NEDO 事業。リチウムイオン電池とナトリウム硫黄電池の合計容量：22.5MWh、出力：11.5MW。

[リリース元] http://www.hitachi-chem.co.jp/japanese/information/2018/n_181031lhi.html

[English] Demonstration Project in Germany; Large-Scale Hybrid power storage System Starting to Operate in November- Utilizing two types of storage batteries in pursuit of stable distribution grids - (October.31.2018)

[source] http://www.hitachi-chem.co.jp/english/information/2018/n_181031zk8.html

2. 今月の注目ニュース / The important news of this month

2.1 北海道豊富・稚内の風力発電および送電線整備の受注報道について(▼1.3項/1.5項参照)

8月に事業の具体的な内容が公になったが、さらに今月は設備を手掛ける企業からの受注発表が相次いだ。国内の大規模蓄電池のプロジェクトで今回のように担当企業から大きく発表されるのは今までにはなかった傾向である。本プロジェクトの概要と、他プロジェクトとの違いの点において少し掘り下げる。

1) 公表時期および内容のまとめ

[時系列]

(2018/10/4) 北海道北部風力送電株式会社が建設工事の着工について発表

<https://www.hokubusouden.com/images/news/2018/20181004.pdf>

総事業費 1000 億円、金融機関からの融資によるもの

(2018/10/5) 千代田化工が EPC の受注を発表

<https://www.chiyodacorp.com/media/181005.pdf>

(2018/10/9) GS ユアサが蓄電池設備の受注を発表

https://www.gs-yuasa.com/jp/newsrelease/article.php?ucode=gs180913322428_598

2) プロジェクトについて

資源エネルギー庁より

http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/new/wind_power/

- ・実証事業であることが明記されている。
- ・平成 28 年度「風力発電のための送電網整備実証事業費補助金」によるもの
- ・平成 25 年度から 10 年間を目途に実施する事業

3) 主な出資会社等について

a. ユーラスエナジーホールディングス株式会社

2001 年設立。豊田通商と東京電力ホールディングスの合弁会社。国内外で大規模風力発電および太陽光発電の設置実績を持つ。

b. エコ・パワー株式会社

1997 年に日本初の風力発電専門事業者として設立

c. 北海道北部風力送電株式会社

2013 年 8 月設立。エネルギー庁が北海道の北部地域を「特定風力集中整備地区」と指定し、この送電網を整備する実証事業の担い手である事業者（補助事業者）の公募に伴い採択された会社。ユーラスエナジーホールディングスも株主である。（他にはエコ・パワー株式会社、北海道電力 など）

- ・2015 年 5 月 19 日の公開シンポジウム内容および発表資料

<https://www.renewable-ei.org/activities/events/20170519.html>

https://www.renewable-ei.org/activities/events/img/20170519/20170519_Ken_Ito.pdf

2013年に経産省から、平成25年度「風力発電のための送電網整備実証事業」の補助事業者に採択された内容のニュースリリースあり。

4) 他プロジェクトの例

蓄電池付きメガソーラー新設の公表に関しては、運営企業のプレスリリース等で行われる場合が多く、各設備を請け負った側の企業が大きく報道するのはまれである。

参考例として、2018年に竣工したあるプロジェクトと各担当企業を以下に挙げるが、特に受注の公表などはされていない。

(例)北海道 新ひだかソーラーパーク(2018年5月24日竣工)：

<https://www.smartsolar.co.jp/news/20180524-6678/>

- ・PVパネル：中国トリナ・ソーラー
- ・PCS：スイスABB
- ・蓄電池：韓国サムスンSDI
- ・EPC(設計・調達・施工)：関電工
- ・O&M(運営・保守)：スマートソーラー

また、上記スマートソーラーのプレスリリースでは具体的な会社名は伏せられており、上記の会社名は、報道したメディアによって出されていたものである。

この例のように、積極的な発表をしないのが一般的な傾向である。

5) 考察等

本プロジェクトで見られた従来とは異なった印象は、結局のところ、本事業は国が主導する実証事業である点が大いと考えられる。そのため、一般的な企業が主導する他の事業とは異なり、その担当企業名などの詳細を公にする必要があった可能性もある。

ただ、資金について、北海道北部風力送電株式会社は上記の調査でわかるだけで平成25年度と28年度に何らかの補助を受けている。本件の出資はユーラスエナジーおよび大手銀行等のアレンジャーとなっているが、結局のところどれくらい補助が投入されているのか不明であった。

2.2 ニチコンの家庭用ESSについて(▼1.4項参照)

家庭用ESSの老舗メーカーの中で、大手の唯一の生き残りとなってしまったニチコンの新製品について、その機能および狙いについて少し掘り下げる。

1) 主な仕様

エントリーモデルとされており、低価格にした分だけ機能が絞られている。

- ・蓄電池：容量4.1kWh(サムスンSDI製)
- ・定格出力：1.5kW
- ・希望小売価格：998,000円(税抜き、設置工事費別)

2) 他製品との比較

100万円を切る低価格製品とえば、2013年12月に価格90万円を売りにしたPanasonicのスタンドアロンタイプ(型式LJ-SF50A)が挙げられる。(現在は生産終了)

- ・蓄電池：容量5.0kWh(自社製18650セル)
- ・定格出力：1.5kW
- ・希望小売価格：900,000円(税抜き)

3) 考察等

上記2機種には系統連系の可否に大きな違いがある。スタンドアロンのPanasonicに対し、系統連系可能なニチコンの新製品は使い勝手の点で大きなアドバンテージを持つ。

出力は共に1.5kWであり、現在の一般的な製品の中ではパワー不足と考えられる。これについては、コスト的、製品サイズ等の理由により1.5kWとした可能性もあるが、ニチコンの狙いとしてFIT終了家庭向けの

自家消費に貢献することを主眼に置いた製品であれば、1.5kW でも必要十分との判断があったとも考えられる。

以 上 / end of report

注意/Notice

本書は、企業等の Web 掲載プレスリリースをピックアップして、その詳細および解説を加えております。

このため、各プレスリリースに著作内容を含む場合にはその著作権は掲載元の企業等に帰属します。

本書の無断転載を禁じます。

Copyright TAKAHASHI TECHNICAL RESEARCH OFFICE. All rights reserved.